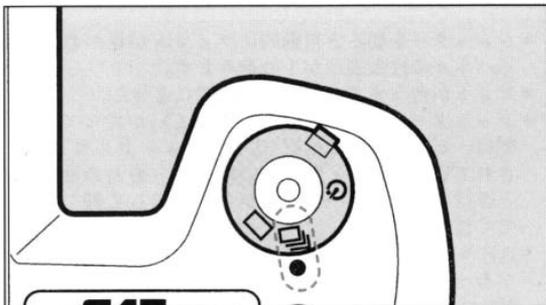


Ⅲ 応用的な使い方

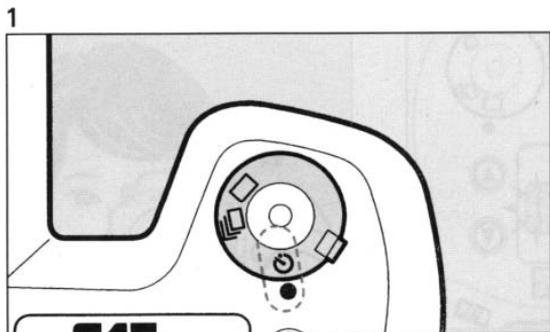


1) 連続撮影

シャッターボタンを押している間、連続的にシャッターが切れます。

ドライブダイヤルを回して 位置に合わせます。

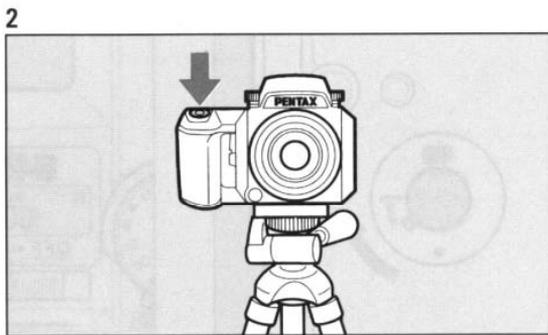
*FAモード切り替えレバーが **SINGLE** では、ピント合わせは1コマ目のみ行われます。2コマ目からは、1コマ目で合わせたピントのまま連続的にシャッターが切れます。



2) セルフタイマー撮影

セルフタイマー撮影は、撮影者も入って記念撮影などをするときに使います。シャッターボタンを押すと、約12秒後にシャッターが切れます。

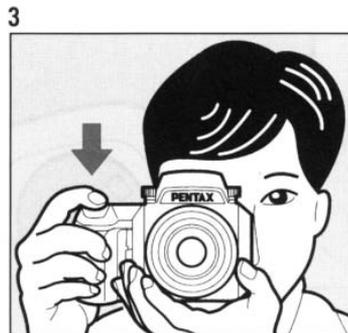
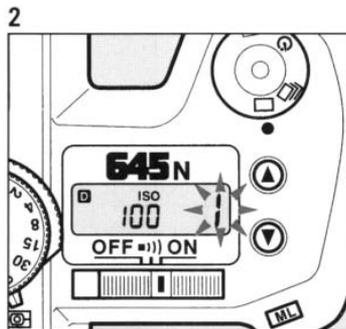
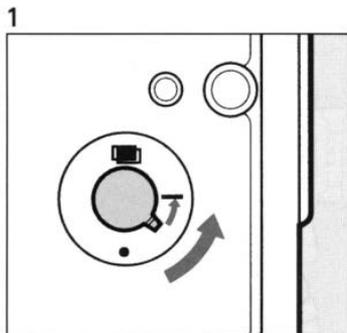
1. ドライブダイヤルを回して 位置に合わせます。



2. シャッターボタンを半押しして写したいものにピントを合わせ、シャッターボタンを押し切るとセルフタイマーが始動します。

*セルフタイマーの作動中は電子音で知らせ、シャッターが切れる約2秒前から、電子音も速い断続音「ピッピッ」になります。

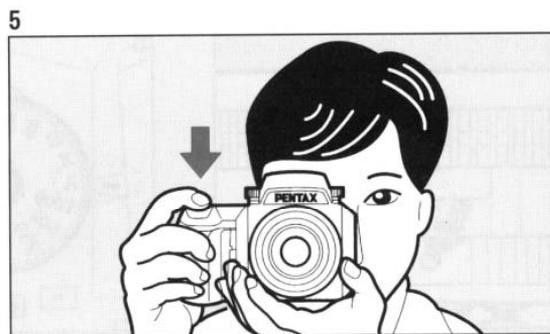
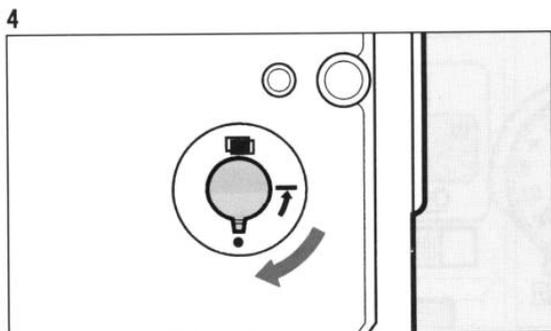
*セルフタイマーを始動後に中止したいときは、ドライブダイヤルを 以外の位置にするか電源を切ってください。



フィルムの同じコマに重ねて撮影できますので、アイデア次第でおもしろいトリック写真などを作ることができます。

3. 多重露出レバーがこの位置では、シャッターを切ってもフィルムは巻かれません。

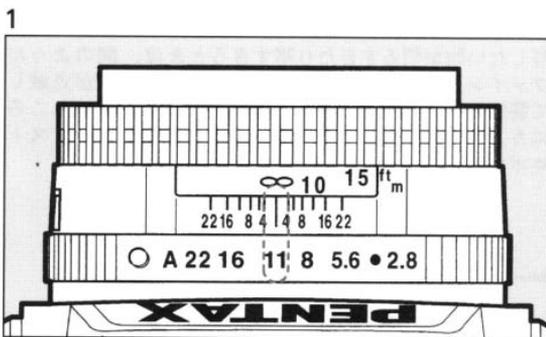
1. 多重露出レバーを矢印方向に止まるまで回します。
2. 表示パネルのフィルム枚数が点減します。



4. 多重露出の最後のコマのシャッターを切る前に多重露出レバーを元の位置に戻します。

5. シャッターボタンを押して撮影を行うとフィルムは次のコマまで巻かれます。

- * 例えば3コマの多重露出の場合、2コマ目の撮影後、多重露出レバーを元の  位置に戻してから3回目のシャッターを切ります。
- * 多重露出では、暗いものを背景にして、ストロボ光を当てた人物などを重ねると比較的良好な結果が得られます。
- * 多重露出をセット後に解除したい場合は、多重露出レバーを矢印と反対方向に回してください。
- * 多重露出では、撮影したコマにずれを生じることがあります。

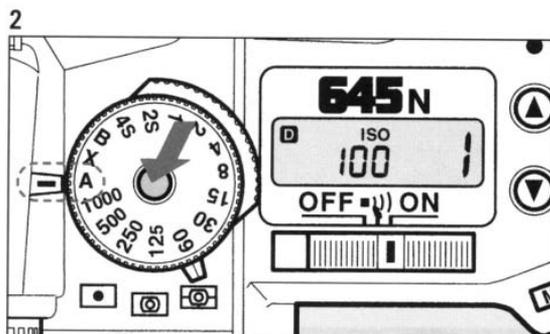


絞り優先自動露出の使い方

希望の絞りに合わせると、写す物の明るさに応じてシャッター速度が自動的に変わります。ピントの合う範囲を広くしたい風景写真や、背景をぼかしたい人物の撮影などに適しています。絞りの効果については、77ページをご覧ください。

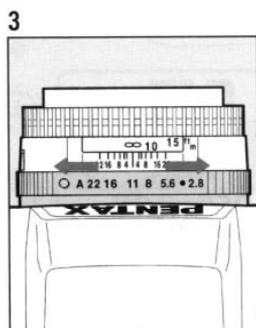
1. 絞りを **A** 位置以外に合わせます。

* レンズの絞りを **A** 位置から **A** 位置以外にする場合には、絞りオートロックボタンを押しながら回してください。



2. シャッターダイヤルロックボタンを押しながら、シャッターダイヤルを **A** 位置に合わせます。

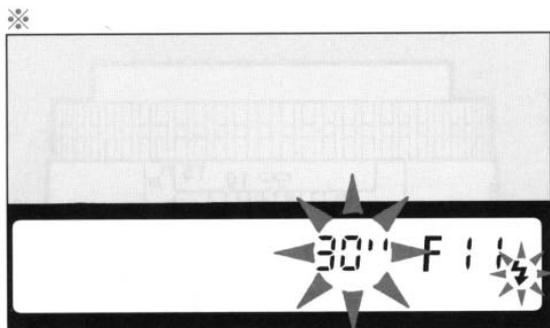
* シャッターダイヤルを **A** 位置から外す場合にも、シャッターダイヤルロックボタンを押しながら回してください。



3. 絞りリングで好みの絞りを選びます。

4. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に絞り値の目安とシャッター速度が表示されます。

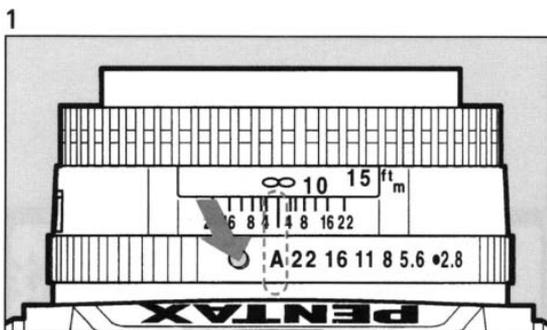
* ファインダー内に表示される絞り値は目安表示です。従って、絞りリングでセットした絞りと表示される絞り値は必ずしも一致しません。特に、A45~85mmF4.5レンズでは小絞り側に、A150mmF3.5レンズでは開放絞り側に絞り表示がずれ易くなっていますのでご注意ください。



※露出警告

写したい物が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内のシャッター速度表示が点滅して警告します。明るすぎるときは絞りを小絞り側[数字の大きい方]に、暗すぎるときは絞りを開放側[数字の小さい方]にして点滅が止まれば撮影できます。

なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外ですから、絞りを変えても適正露出は得られません。明るすぎるときは、もう少し暗いところにカメラを向け直してください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

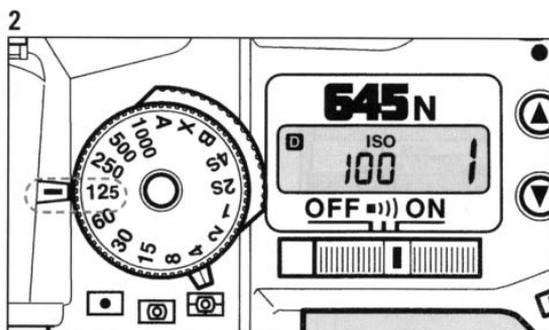


シャッター優先自動露出の使い方

希望のシャッター速度に合わせると、写したい物の明るさに応じて絞りが自動的に変わります。速い速度で動きを止めたり、遅い速度で動感を出すのに適しています。シャッター速度の効果については、76ページをご覧ください。

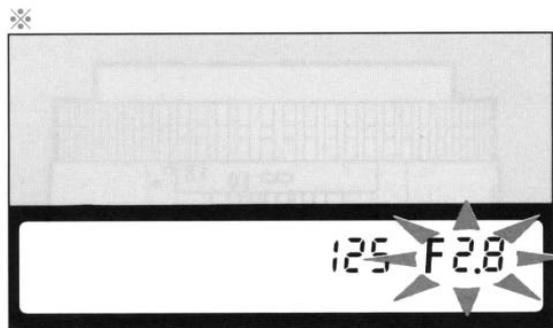
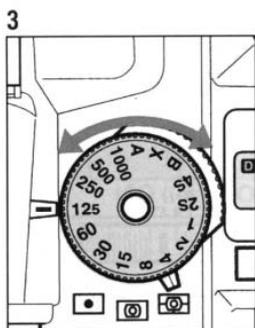
1. 絞りオートロックボタンを押しながら、絞りを **A** 位置に合わせます。

* レンズの絞りを **A** 位置から外す場合にも、絞りオートロックボタンを押しながら回してください。



2. シャッターダイヤルを **A** 位置以外に合わせます。

* シャッターダイヤルを **A** 位置から **A** 位置以外にする場合には、シャッターダイヤルロックボタンを押しながら回してください。

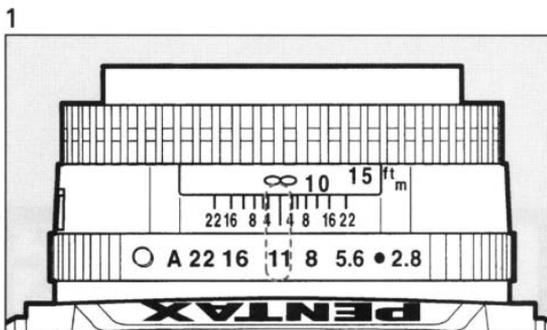


3. シャッターダイヤルで好みのシャッター速度を選びます。
4. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にシャッター速度と、絞り値が表示されます。

* ストロボ撮影で、シャッター速度を 1/60 秒に固定したい場合や、シャッター速度が自動的に切り替わらないストロボを使用するときはシャッターダイヤルを **X** (1/60 秒) 位置に合わせてください。シャッターダイヤルを **X** 位置にしたり、**X** 位置から外す場合は、シャッターダイヤルロックボタンを押しながら回してください。

※露出警告

写したい物が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダーの絞り値表示が点滅して警告します。明るすぎるときはシャッター速度を速く、暗すぎるときはシャッター速度を遅くして点滅が止まれば撮影できます。なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外ですから、シャッター速度を変えても適正露出は得られません。明るすぎるときは、もう少し暗いところにカメラを向け直してください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

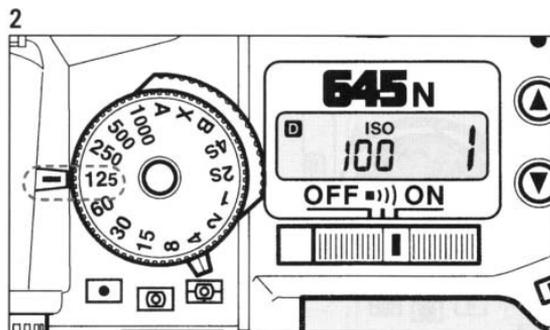


マニュアル露出の使い方

常に同じシャッター速度と絞りの組み合わせで撮影をする場合や、意図的に露出オーバー[明るい写真]や露出アンダー[暗い写真]にするとときに使います。

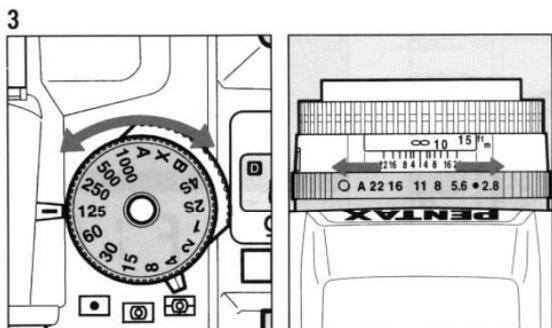
1. 絞りを **A** 位置以外に合わせます。

* レンズの絞りを **A** 位置から **A** 位置以外にする場合には、絞りオートロックボタンを押しながら回してください。



2. シャッターダイヤルを **A** 位置以外に合わせます。

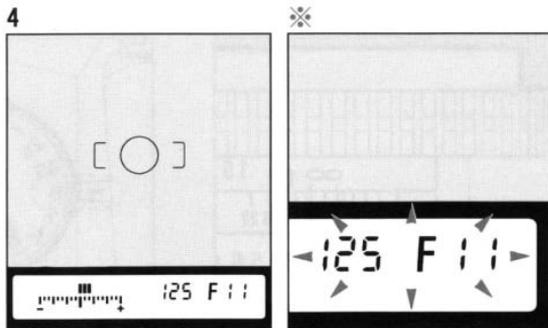
- * シャッターダイヤルを **A** 位置から **A** 位置以外にする場合には、シャッターダイヤルロックボタンを押しながら回してください。
- * ストロボ撮影で、シャッター速度を 1/60 秒に固定したい場合や、シャッター速度が自動的に切り替わらないストロボを使用するときはシャッターダイヤルを **X** (1/60 秒) 位置に合わせてください。シャッターダイヤルを **X** 位置にしたり、**X** 位置から外す場合はシャッターダイヤルロックボタンを押しながら回してください。



3. シャッターダイヤルで好みのシャッター速度を、絞りリングで好みの絞りを選びます。

4. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に絞り値の目安とシャッター速度およびバーグラフが表示されます。

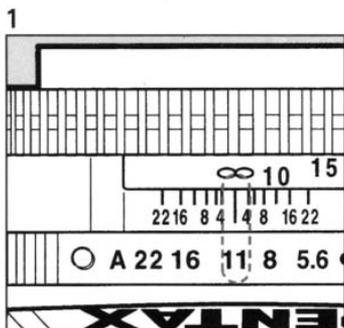
* バーグラフの **■** が **-** 側に並んでいるときは露出不足、**+** 側に並んでいるときは露出がオーバーです。中心にあれば適正露出です。バーグラフの **■** 1 個は 1/3 段階 [1/3EV] に相当します。ただし、±3 段階 [±3EV] を超えた場合は、**-** あるいは **+** が点滅表示します。



* ファインダー内に表示される絞り値は目安表示です。従って、絞りリングでセットした絞り値と表示される絞り値は必ずしも一致しません。特に、A45~85mmF4.5 レンズでは小絞り側に、A150mmF3.5 レンズでは開放絞り側に絞り表示がずれ易くなっていますのでご注意ください。

※露出警告

写したい物が明るすぎたり暗すぎて、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅したときは、測光範囲外ですから、シャッター速度や絞りを変えても適正露出は得られません。明るすぎるときは、もう少し暗いところにカメラを向け直してください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

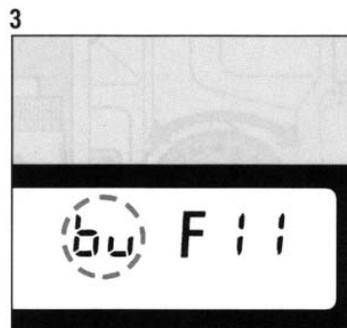
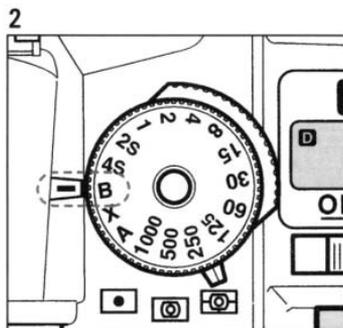


バルブの使い方

花火、夜景などの撮影で長時間シャッターを開いておく必要のあるときにご利用ください。シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。

1. 絞りを **A** 位置以外に合わせます。

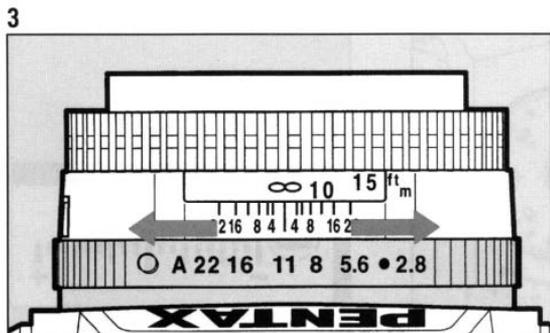
* レンズの絞りを **A** 位置から **A** 位置以外にする場合には、絞りオートロックボタンを押しながら回してください。



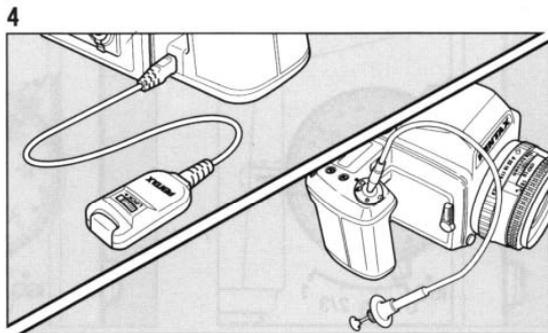
2. シャッターダイヤルを **B** 位置に合わせます。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に **bu** と絞り値の目安が表示されます。

* 絞りを **A** 位置にすると、常に最小絞りで撮影されてしまいますのでご注意ください。

* ファインダー内に表示される絞り値は目安表示です。従って、絞りリングでセットした絞りと表示される絞り値は必ずしも一致しません。特に、A45~85mmF4.5 レンズでは小絞り側に、A150mmF3.5 レンズでは開放絞り側に絞り表示がずれ易くなっていますのでご注意ください。



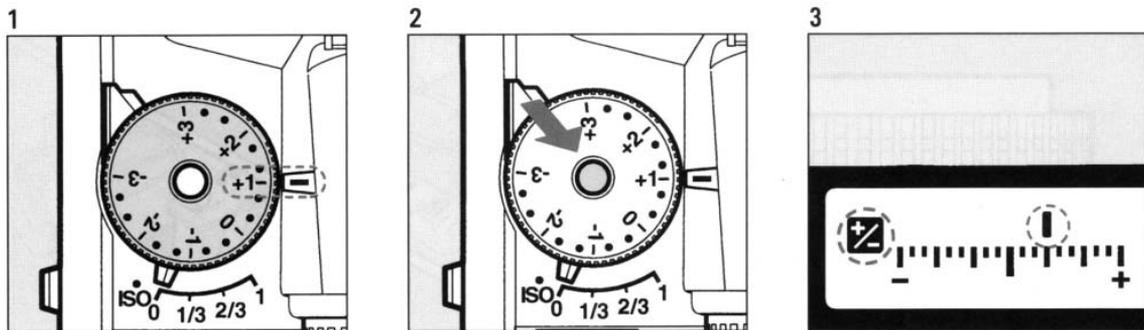
3. 絞りリングで好みの絞りを選びます。



4. バルブで撮影するときは、ぶれ防止のためしっかりした三脚を使用し、別売りの「ケーブルスイッチF」をリリースソケットに付いているリリースキャップFを外してから差し込むか、「ケーブルリリース」をリリースソケットに差し込んでご利用ください。

* 「ケーブルリリース」あるいは「ケーブルスイッチF」でもシャッターボタンの半押しができますので、オートフォーカスを作動させたり、ファインダー内表示を点灯させることができます。

* 新品電池でのバルブ撮影可能時間については、13ページをご覧ください。



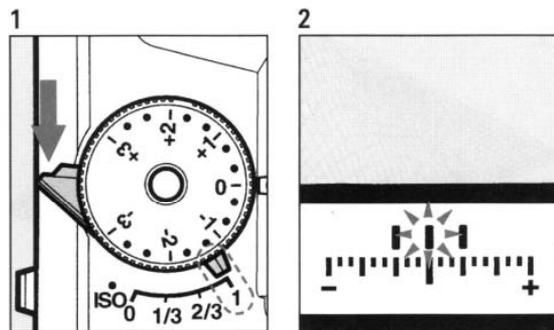
意図的に露出オーバー[明るい写真]や露出アンダー[暗い写真]にしたいときなどに使います。

1. 露出補正ダイヤルを回して、好みの補正値を選びます。
2. 露出補正ダイヤルは、0位置でロックされます。この位置から別の位置に切り替えるときは、露出補正ダイヤルロックボタンを押しながら回してください。

3. ファインダー内に補正値を示すバーグラフと  が表示されます。

- * 露出補正はバルブでは使えません。
- * 露出補正は、-3~+3段階[EV]の範囲で0.3段階[EV]ごとに行なえます。
- * バーグラフの  の移動量1つが0.3段階[EV]に相当します。
- * マニュアル露出での露出補正では、ファインダー内に露出補正値を示すバーグラフは表示されず、マニュアル露出のオーバー・アンダーを示すバーグラフだけが表示されます。ただし、 は表示されます。バーグラフの  を中心に合わせれば、設定した補正値での撮影ができます。

オートブラケット撮影



露出補正が必要だが補正値を決定しにくいときなど、3コマ連続の段階露出を行うことができます。

1. オートブラケットレバーを希望の補正値に合わせ、シャッターボタンを押すつづけると、設定した補正量に従って3コマ連続で撮影できます。

* 補正量は、例えばオートブラケットレバーの設定を1にすると、1コマ目=±0(適正)、2コマ目=-1EV、3コマ目=+1EVとなります。

2. ファインダー内のバーグラフの表示は、例えばオートブラケットレバーの設定が1の場合、撮影前は±0(適正)の  が点滅し、1コマ目撮影後には-1位置の  が点滅に、2コマ目撮影後には+1位置の  が点滅にそれぞれ変わりますので、次の撮影時の補正値を  の点滅位置で確認できます。

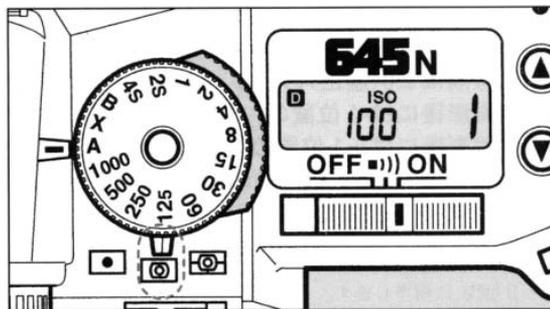
- * ファインダー内のバーグラフの  の移動量1つが0.3EVに相当します。
- * 測光は1コマごとに行われますが、ピントは1コマ目の位置で固定されます。
- * 一度、ファインダー内の表示が消えると、一コマ目撮影前の状態に戻ります。

露出補正との組み合わせ

露出補正と併用すると、補正した値を基準にしてオートブラケットが動きます。

マニュアル露出との組み合わせ

マニュアル露出(シャッターダイヤル  位置を除く)でもオートブラケット撮影ができます。この場合はシャッター速度だけが段階的に変化します。ファインダー内には、露出値を示すバーグラフは表示されますが、補正値を示すバーグラフは表示されません。

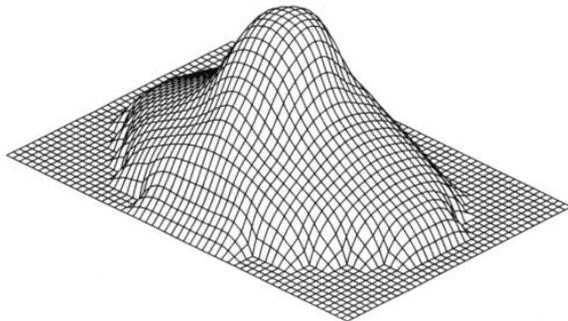


このカメラでは、撮影者の好みに測光モードを分割測光から中央重点測光あるいはスポット測光に切り替えることができます。

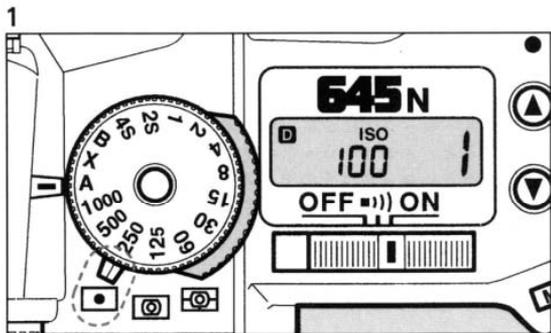
中央重点測光を使います

分割測光のようにカメラ任せで露出を決めるのではなく、経験的に補正をして明るさを決める場合などにご利用ください。

測光方式切り替えレバーを図の緑の部分を持って  位置に合わせます。



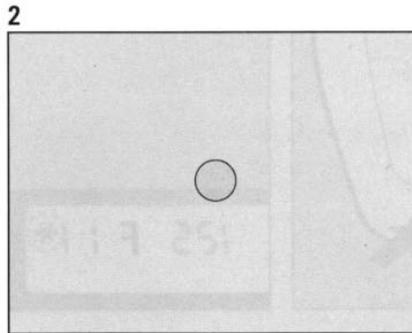
- * 測光分布は、図のようになっており、高さが高い部分（中央部分）ほど感度が高いことを表わしています。
- * 中央重点測光では、分割測光のように逆光のときなどで、カメラが自動的に露出を補正しませんので、経験的に露出を補正して撮影したい場合などにご利用ください。



スポット測光を使います

スポット測光は、限られた狭い範囲だけの明るさを測りたいときに使います。

1. 測光方式切り替えレバーを図の緑の部分を持って  位置に合わせます。



2. 図のように、中央の限られた狭い範囲だけの明るさを測ります。

- * 中央部とそれ以外の周辺部との明暗差が大きい場合には、全体の明るさを考慮して露出を決めないと、不自然な写真になってしまいます。